

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	応用栄養学Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	302600	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	出口 佳奈絵								ICT活 用	○
授業概要	本科目では、成長、加齢に伴う人体の生理的変化と特徴を学び、栄養状態や心身機能に応じた栄養ケア・マネジメント実施のための理論を習得することを目的とする。特に、妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、幼児期・学童期・思春期における多様な背景を理解し、人体の構造や生理機能の変化に伴う栄養状態の推移に相応する栄養学の学修を深める。また、健康な人の栄養管理の指標となる食事摂取基準の基本的な考え方を理解し、適切な栄養ケア実施のための基礎力を養うことを目指す。									
関連する科目	(履修前) 基礎栄養学、からだと栄養、からだと疾病、栄養教育論、臨床栄養学 (履修後) 公衆栄養学、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習									
授業の進め方 と方法	教科書及びサポートシート、パワーポイントを用いた講義形式で進行する。 授業内の練習問題で理解度を確認する。 授業内で課題解決に向けたペアワークを行う。									
授業計画 【第1回】	栄養ケア・マネジメントの概念 栄養ケアのためのマネジメントサイクルについて学ぶ。									
授業計画 【第2回】	食事摂取基準の基礎的理解 食事摂取基準の基本的な考え方について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	食事摂取基準の科学的根拠 食事摂取基準の基本的な活用法について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	発育・発達・加齢による生理的変化と栄養 年齢による身体状況の変化や必要な栄養素について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	妊娠期・授乳期の生理的特徴 妊娠期・授乳期における生理的変化を学ぶ。									
授業計画 【第6回】	妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメント 妊娠期・授乳期における栄養評価や栄養管理法を学ぶ。									
授業計画 【第7回】	新生児期・乳児期の生理的特徴 新生児期・乳児期における生理的変化を学ぶ。									
授業計画 【第8回】	新生児期・乳児期の発達と栄養ケア・マネジメント 乳児身体発育曲線と栄養評価から栄養管理法を学ぶ。									
授業計画 【第9回】	幼児期の発達と生理的特徴 幼児期における成長に伴う生理的変化を学ぶ。									
授業計画 【第10回】	幼児期の栄養ケア・マネジメント 幼児期における栄養評価や栄養管理法を学ぶ。									

授業計画 【第11回】	学童期の発達と生理的特徴 学童期における成長に伴う生理的变化を学ぶ。
授業計画 【第12回】	学童期の栄養ケア・マネジメント 学童期における栄養評価や栄養管理法を学ぶ。
授業計画 【第13回】	思春期の発達と生理的特徴 思春期における生理的变化を学ぶ。
授業計画 【第14回】	思春期の栄養ケア・マネジメント 思春期における栄養評価や栄養管理法を学ぶ。
授業計画 【第15回】	応用栄養学Ⅰのまとめ ライフステージ各期のまとめと実践事例を学ぶ。
授業の到達目標	①栄養ケア・マネジメントの概念を知る。【知識・理解の獲得】 ②日本人の食事摂取基準の意義と基本的理論を理解できる。【多様性理解の育成】 ③ライフステージ各期の生理的特徴と心身機能について理解できる。【問題解決力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	講義前日、次回範囲の内容について教科書を熟読し、学習しておくこと。(90分)
授業時間外学習【復習】	管理栄養士国家試験の過去問題を解く習慣をつけること。(90分) また、普段から食と健康に関する情報に興味・関心を高めておくこと。
課題に対する フィードバック	・ 定期試験は採点結果を開示する。 ・ ペアワークに対する助言を行う。
評価方法・基準	①定期試験(80%) ②小テスト(20%)
テキスト	栄養科学シリーズNEXT「応用栄養学 第7版」(講談社)木戸康博ら編(2025)
参考書	・ 「日本人のための食事摂取基準(2025年版)」 ・ 健康・栄養科学シリーズ「基礎栄養学 改定第7版」(南江堂)合田敏尚ら編(2024)
備考	毎回の予習と復習は大切である。なお、授業の振り返りを記録する自己評価シートは、出席管理に使用する。 配布資料の整理を行い、学習内容の定着に努めて3年次の「応用栄養学実習」に備えること。